

学科課程カリキュラム 及び 授業計画

【教職課程科目】

[履修にあつたての遵守事項]

我が国の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を要する内容をもって構成することが標準とされている。ここでいう1 単位あたりの学修時間は、授業時間内の学修時間だけでなく、その授業の事前の準備学修・事後の準備復習を合わせたものになっている。この主旨を踏まえ、各教科の履修に当たっては、授業計画を参考に予習・復習に努め、1 単位当たりの学修時間を確保することに努めること。

2018年度
(平成30年度)
第一工業大学

(10) 教職課程科目

教職に関する科目

凡例	☆：教職必修 無印：教職選択（但し、教科科目は適用外） ②：集中講義 中技：中学校技術 中数：中学校数学 高工：高校工業 高数：高校数学																			
科目 区分	科目 番号	授業科目	科目 単位	週授業時間数								区分最低 修得単位		免許別必修 ・選択区分				備 考		
				1 年		2 年		3 年		4 年		中学	高校	中技	中数	高工	高数			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
第二欄	6511	教師論	2	2								2	2	☆	☆		☆			
第三欄	6561	教育原理	2			2						6	6	☆	☆		☆	教育の理念並びに歴史及び思想を含む。		
	6562	教育経営論	2			2								☆	☆		☆	社会制度的又は経営学的事項を含む。		
	6514	教育心理学	2			2								☆	☆		☆	心身の発達及び学習の過程を含む。		
第四欄	6515	教育課程論	2			2						12	6	☆	☆		☆			
	6516	数学科教育法Ⅰ	2					2							☆		☆			
	6517	数学科教育法Ⅱ	2					2							☆		☆			
	6518	数学科教育法Ⅲ	(2)							2										
	6551	数学科教育法Ⅳ	(2)							2										
	6519	技術科教育法Ⅰ	2					2						☆						
	6520	技術科教育法Ⅱ	2					2						☆						
	6521	技術科教育法Ⅲ	2							2										
	6552	技術科教育法Ⅳ	2							2										
	6522	工業科教育法Ⅰ	2					2												
	6523	工業科教育法Ⅱ	2					2												
	6524	道德教育	2					2						☆	☆			中免のみ必修		
	6563	特別活動論	2					2						☆	☆		☆			
	6564	教育の方法と技術	2					②						☆	☆		☆			
	6527	生徒指導論	2					2						4	4	☆	☆		☆	進路指導の理論及び方法を含む。
	6528	教育相談	2					2								☆	☆		☆	
第五欄	6544	事前・事後指導	1							1		5	3	☆	☆		☆			
	6545	教育実習Ⅰ	2							②				☆	☆		☆			
	6546	教育実習Ⅱ	2							②				☆	☆			中免のみ必修		
第六欄	6547	教職実践演習(中・高)	2							2		2	2	☆	☆		☆			
		計	47									31	23							

教科番号	6511	授業科目：教師論（Ethics for Teachers）		
開講時期	後期	（全）学科（１）年（２）単位 担当者： 岩橋 法雄		
【授業の到達目標】				
「教育は人なり」と言われるように、人を育てる教師の存在は、何時の時代にあっても教育を受ける者にとっては重要な存在である。そこで、教員を志す学生が、教員の職責の大きさを認識し、資質の向上を図り、使命感などを確立して教育的情熱を持って教員となるよう、講義全体を通じて指導する。				
【授業の概要】				
教職の意義や役割、教師の歴史や教師像、教員の職務内容、進路指導について学び、教員としての資質能力を高めるとともに、教職に対する愛着や誇り、教員の使命感や責任感、倫理観などについて理解し、考察する。さらに、小テストやディスカッションも取り入れて理解を深めさせる。また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れて実施していく。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教職の意義と役割	人間形成における教育の必要性、教職の意義や役割	テキスト(該当箇所を指示する)を読む。授業プリントを復習。	30 60
2	教師の歴史と教師像	近代国民教育制度（公教育）の中での教職の成立	テキスト(該当箇所を指示する)を読む。授業プリントを復習。	60 60
3	教員の資質能力	教師の専門性と、教職の専門性	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業プリントを復習。	30 60
4	教員養成制度の歴史と変遷(1)	戦前日本と戦後日本の教員養成	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。小テストの準備。	30 60
5	教員養成制度の歴史と変遷(2)	「でもしか」教師の克服と、専門性の向上	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の復習をする。	60 60
6	1回～5回までのまとめ	自分の目指す教師像を発表し合い、ディスカッションする	ディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。	120 60
7	教育公務員としての教員の服務	「使命」の意味。身分上の義務と職務上の義務	配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。	60 60
8	指導が不適切な教員の人事管理	懲戒処分と分限処分。研修制度。免許更新制度など	配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
9	生徒に対する教師の行為(1)	懲戒の範囲と体罰。不登校対策。	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
10	生徒に対する教師の行為(2)	いじめ問題への対応 児童虐待への対応	テキスト(該当箇所)を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
11	6回～10回までのまとめ	教員採用試験問題から関連問題を抽出し、解答・解説。ディスカッション。	授業の内容を復習する。 演習問題の取り組みと提出	60 120
12	学級経営(1)	学級経営の計画、生徒の実態把握、保護者との連携	配布プリントを読み、意見・感想を発表する準備。授業のまとめ。	60 60
13	学級経営(2)	小1プロブレムなど問題を抱えた子どもの発見・対応。ディスカッション。	授業のまとめ。ディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。	60 120
14	発達障害を理解する	発達障害の基本を理解する。学級での包摂と自立を考える	配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。	60 60
15	まとめ	まとめと総括。小テストの実施	小テストの準備。 ノートの整理とまとめ。	60 60
【テキスト】 新教師論 久田俊彦他編著 ミネルヴァ書房				
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜配布する。 汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房				
【成績評価基準・方法】 レポート（15%）、小テスト（15%）、試験（70%）で総合的な評価を行う。				

教科番号	6561	授業科目：教育原理（ Education Principal ）		
開講時期	前期	（ 全 ）学科（2）年（2）単位 担当者： 岩橋 法雄		
【授業の到達目標】				
学校における教育活動は、ひとりひとりの人間の成長・発達のもとより、国家・社会の発展に関わるものでありその教育の成否は教員の資質能力に大きく左右される。そこで、教員を志す学生が、教育の本質と目的などを理論的に学ぶことにより、健全な教育的識見や教育信念などの教員としての資質能力を身につけて教員となるよう、講義全体を通じて教育指導を行う。				
【授業の概要】				
教育の本質や目的、教授理論などを歴史的・実証的に学習する。その際、社会的教育現象は決して歴史社会から切り離されたものでない。西洋教育史や日本教育史の時系列における学習と、今日社会の教育課程や学習指導要領などの学校教育の実際を学習する。さらに、小テストやディスカッションも取り入れて理解を深めさせる。また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れて実施していく。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教育の本質を考える	education と indoctrination との違いを理解する	配布プリント（該当箇所を指示する）を読む。授業を復習。	30 60
2	人間(人類)の発達と言語の役割	時間と空間を超えての情報・技術の伝達。言葉の構造	テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。	60 60
3	類としての人間の本源的能力	赤ちゃん学から学ぶ。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業プリントを復習。	30 60
4	発達環境としての人間的社会	「狼に育てられた少女」の話を真偽と、学ぶべき教訓	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。小テストの準備。	30 60
5	西洋教育思想の展開と社会背景	ソクラテスの教育思想と方法。西洋中世の共同体と人間	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の復習をする。	60 60
6	人間と文化の覚醒(1)	イタリアルネサンスと人間的自然の思想、欲求の人間の覚醒	ルネサンスの美術などを調べて、何が「欲求的」かを考えて発表。	120 60
7	人間と文化の覚醒(2)	北方ルネサンスと人間の経験的知の重視	配布プリントを読みまとめる。とりわけ「神の支配」を考える	60 60
8	近代教育原理としての2本の柱	1～7 回までの総復習として「2本の柱」をディスカッション	ディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。	30 120
9	ルソーとペスタロッチの教授法	「自然人」の教育。開発教授法	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
10	産業革命と教育教授法の改革	ヘルバルト教授法。世界新教育運動など。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
11	戦後日本の教育改革	学習指導要領の意味と変遷	授業の内容を復習する。演習問題の取り組みと提出	60 120
12	今日日本の教育問題	学力問題。「ゆとり世代」の諸問題。	配布プリントを読み、意見・感想を発表する準備。授業のまとめ。	60 60
13	特別支援教育の諸問題	小1 プロブレムなど問題を抱えた子どもの発見・対応。ディスカッション。	授業のまとめ。ディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。	60 120
14	発達障害を理解する	発達障害の基本を理解する。学級での包摂と自立を考える	配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。	60 60
15	まとめ	まとめと総括。小テストの実施	小テストの準備。ノートの整理とまとめ。	60 60
【テキスト】 随時、関連資料を配付				
【参考書・参考資料等】 汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』、 ミネルヴァ書房 安彦忠彦『よくわかる教育学原論』、 ミネルヴァ書房				
【成績評価基準・方法】 レポート（15%）、試験（70%）で総合的な評価を行う。				

教科番号	6562	授業科目：教育経営論（ Business Administration ）		
開講時期	後期	（ 全 ）学科（2）年（2）単位 担当者： 岩橋 法雄		
【授業の到達目標】 教育の成果や教員の資質能力を高めるため、教員が、日本国憲法や教育基本法等の諸法規に基づいて教育が推進されていることを理解し、認識する必要がある。 そこで教員を志す学生が、近代学校制度や学校教育に関わる諸法規等を理解し、教育の基礎理論を身につけて教員となるよう、講義全体を通じて教育指導を行う。				
【授業の概要】 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を学習して教育制度や学校経営等を理解するとともに、教育基本法や学校教育法等の諸法規についても学習を深め、教育を法的に考察させるようにする。また、日本及び諸外国の教育改革の現状を概観する。さらに、小テストやディスカッションも取り入れて理解を深めさせる。また、アクティブラーニングについても積極的に取り入れて実施していく。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	学校の歴史的な性格	学校の概念、私教育から公教育へ	テキスト（該当箇所を指示する）を読む。 授業プリントを復習。	30 60
2	学校制度の構造	近代国民教育制度（公教育）の成立と分岐システム	テキスト（該当箇所を指示する）を読む。 授業プリントを復習。	60 60
3	日本の学校制度、戦前と戦後。	国民教育の理解を深める 制度図の違いを読み取る	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 復習と小テストの準備。	30 60
4	教育行政の成り立ちとあり方	英米型と大陸型の行政観の違いと意味を理解する。	プリントの行政関連英語句・用法を自分で調べて訳してみる。提出。	30 60
5	教育基本法と教育行政の基本	特に教育内容行政の原理を理解する。 小テストの実施。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の復習をする。	60 60
6	教育委員会制度の成立と変容	教育委員会の組織と構成、を理解する	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
7	1回～6回までのまとめ	教員採用試験問題から関連問題を抽出し、解答・解説。 ディスカッション。	それらディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。	120 60
8	教育委員会の改革と権限	教育振興基本計画の意味と教育委員会の果たす役割	配布プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
9	学校経営(1)	校長の権限と職員会議、学校評議員制度、評価制度。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
10	学校経営(2)	学校経営の基本、校務分掌 教職員の種類と職務	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
11	学級経営(1)	学級経営の計画、生徒の実態把握、保護者との連携	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
12	学級経営(2)	小1 プロブレムなど問題を抱えた子どもの発見・対応。ディスカッション。	配布プリントを読み、意見・感想を発表する準備。授業のまとめ。	120 60
13	現代日本の学校教育	学力向上の問題と、選択制度の拡大	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
14	諸外国の教育改革	世界の改革動向で何が問題となっているかを理解する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
15	まとめ	まとめと総括。小テストの実施	小テストの準備。 ノートの整理とまとめ。	60 120
【テキスト】 新訂第2版図解・表解 教育法規 坂田仰他編 教育開発研究所				
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜配布する。 汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房				
【成績評価基準・方法】 ノート取得状況&レポート（30%）、小テスト（10%）、試験（60%）で総合的な評価を行う。				

教科番号	6514	授業科目名	教育心理学（ Educational psychology ）				
教員の免許状取得のための必修科目／選択科目				必修科目			
開講時期	前 期	単位数	2 単位	担当教員名	平井正三郎	担当形態	単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授業の到達目標及びテーマ							
「人格の完成」を第一の目標とする学校教育において、心理学的知識は教育実践にとって重要である。それは「生きる力」（知・徳・体のバランスのとれた力）の養成にも同様で、知能・学習、情緒・人格、成長・発達等、心理学の諸理論とそれを活かした実践力の育成を目的にし、以下の3点を主な目標とする。 ① 教育心理学全般の基礎的・基本的な知識を理解する。 ② 心理学的な知識、見方や考え方を、生徒と保護者、職場や地域との対人関係性に役立てる。 ③ 教育心理学の知識、見方・考え方を授業づくりやクラス運営などに活かそうとする。							
授業の概要							
知育・徳育・体育の三位一体によって人格の完成をめざす教育を実践するという教師の使命を、心理学の諸理論や具体的実践例の学習を通して、「わかる」から「できる」への「教師力」が身につけられるような授業展開をする。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）			時間(分)	
1	オリエンテーション	授業全般のガイダンス、自己紹介（他者紹介）など	シラバスを読んでまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30 60	
2	記憶力がいいとは どういうことか	記憶と忘却（テキスト第1章）	テキスト（第1章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			60 45	
3	学ぶことと考える こと	学習（テキスト第2章）	テキスト（第2章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			60 45	
4	ほめることの大切 さ	叱る・怒る・勇気づける（テキ スト第3章）	テキスト（第3章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45 60	
5	「やる気」を考え る	モチベーション〔内発・外発〕（テ キスト第4章）	テキスト（第4章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45 60	
6	学級という社会	個人と集団（個と場）、関係性（テ キスト第5章）	テキスト（第5章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			60 45	
7	何をどのように教 えるか	アクティブ・ラーニングへ変革 （テキスト第6章）	テキスト（第6章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			60 60	
8	児童・生徒をどう 評価するか	教育評価（絶対評価と相対評価） （テキスト第7章）	テキスト（第7章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45 60	
9	人間の発達につい て考える	生涯発達の過程と個人差（テキ スト第8章）	テキスト（第8章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45 45	
10	知的発達のメカニ ズム	生涯発達の知的側面（テキスト 第9章）	テキスト（第9章）を読みまとめる。 配布資料・授業の内容を復習する。			45 60	
11	人格発達の基礎	個性・性格、人格の完成（テキ スト第10章）	テキスト（第10章）を読みまとめる。 配布資料・授業の内容を復習する。			30 60	
12	困難を抱える子ど もたち	特別支援教育の理解（テキスト 第11章）	テキスト（第11章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30 60	
13	いじめ・不登校問 題	競争原理と協力原理、アドラー心 理学の学校教育への活用	プリントを読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30 60	

14	カウンセリングマインドとは	受容・傾聴・共感の基本姿勢（テキスト第12章）	テキスト（第12章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。	30 60
15	教師のメンタルヘルス	教師のバーンアウト予防 総まとめ	プリントを読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。	45 100
	定期試験			
【テキスト】 『やさしい教育心理学第4版』（鎌原雅彦・竹綱誠一郎著、有斐閣アルマ）				
【参考書・参考資料等】 授業中に適宜指示する。				
【学生に対する評価】 受講態度およびリアクションシート（30%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）などで総合的に評価をします。				

教科番号	6515	授業科目：教育課程論（Educational Curriculum Theory）		
開講時期	後期	（全）学科（2）年（2）単位 担当者：萩原 和孝		
【授業の到達目標及びテーマ】				
テーマ：教育課程の編成原理を認識し、教育課程編成へ見通しを得る。				
到達目標：①教育課程の変遷と現在日本で取り組まれている教育課程の実際を把握する。				
②教育課程を編成するための方法原理や教育評価のあり方を認識し、そのための基礎的な能力を獲得する。				
③現代社会の課題や社会的要請に対応する教育課程の試みを知り、これからの教育活動をつくりだしていく見通しを得る。				
【授業の概要】				
前半は日本における教育課程の歴史的変遷を通じて、各時代の教育課程の理論や背景等を解説する。中盤は現在の学校教育における教育課程編成の実際を、教育課程の基準である学習指導要領等を中心に解説する。後半は、地域とのつながりや社会的要請への対応が求められている状況での教育課程編成や評価のありかた等について解説し、年間指導計画作成という演習的活動も取り入れる。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教育課程とは	教育課程の意義、類型、構造（経験主義・系統主義等）	テキスト(p.1～26)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
2	日本における教育課程の歴史的展開	明治期の教育課程（学制、教育令など）	テキスト(p.27～30)、『学制百二十年史』（第一編第一章の概説）を読む。 授業の復習をする。	60 30
3	日本における教育課程の歴史的展開	大正期から昭和初期の教育課程（大正自由教育、郷土教育、国民学校）	テキスト(p.30～31、36)、『学制百二十年史』（第一編第二章の概説）を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
4	日本における教育課程の歴史的展開	学習指導要領の変遷（戦後「新教育」～教育課程の現代化）	テキスト(p.32～35)、学制百二十年史』（第二編第一章の概説、第二編第二章の概説）を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
5	日本における教育課程の歴史的展開	学習指導要領の変遷（人間中心カリキュラム～「生きる力」「ゆとり」）	テキスト(p.32～35)、学制百二十年史』（第三編第一章第一節）を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
6	日本における教育課程の歴史的展開	近年の学習指導要領改訂の経過と特徴（「確かな学力」～平成29年3月改訂、アクティブ・ラーニングなど）	テキスト(p.179～194)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
7	教育課程編成と学校組織	教育課程編成の主体 学校組織（校務分掌）など	テキスト(p.37～50)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
8	学校種ごとの教育課程編成の特徴	小学校・中学校の学習指導要領および教育課程	テキスト(p.51～86)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
9	学校種ごとの教育課程編成の特徴	高等学校・特別支援学校の学習指導要領および教育課程	テキスト(p.87～114)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30

10	教育課程における道徳教育や教科外活動の位置づけ	道徳教育をめぐる政策動向、特別活動・総合的な学習の時間の理念と実践例	テキスト(p.130~147)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
11	社会に開かれた教育課程	コミュニティスクール(学校運営協議会)、学校評議員、学校支援地域本部	文部科学省 HP に掲載されている「コミュニティ・スクールパンフレット」を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
12	特色ある教育課程	国内の特色ある教育課程や、諸外国の教育課程の理論や実践	テキスト(p.65、165~178)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
13	教育課程の評価	評価の意義・役割、学校評価ガイドライン、指導要録	テキスト(p.148~164)を読む。 授業の内容を復習する。	60 30
14	教育課程の計画・実施・評価・改善	総合的な学習の時間などの年間指導計画を作成し、発表する。	総合的な学習の時間などの年間指導計画を事前に入手し、それらに参考に、新規の指導計画または改善した計画を作成する。 他の受講生の発表や指摘を受けて、さらに計画を改善する。	120 60
15	まとめ 教育課程編成の今後について	学校教育を取り巻く社会的状況(情報化、子どもの貧困など)。「コンテンツ」から「コンピテンシー」へ。	授業内容全体の総括とまとめ 評価試験の準備	60 120
【テキスト】古川治ほか『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房、2015 年				
【参考書・参考資料等】				
・『学制百年史』『学制百二十年史』(いずれも文部科学省ホームページに掲載)。 ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」平成 28 年 12 月、中央教育審議会 ・その他、随時配布または指示する				
【成績評価基準・方法】				
第 14 回の発表(40%)、授業後の感想・疑問点などの提出(10%)、評価試験(50%)を総合的に評価する。				

授業科目名： 数学科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田信哉 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ				
1. 中学校数学科及び高等学校数学科の目標や主な内容、全体構造を理解する。				
2. 中学校数学科及び高等学校数学科における基礎的な学習指導理論（情報機器及び教材・教具の活用も含む）、評価方法を理解する。				
3. 中学校数学科及び高等学校数学科における学習指導案の構成を理解し、具体的な教材について学習指導案を作成することができるようにする。				
4. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につける。				
授業の概要				
本授業では、全国・学力学習状況調査などの各種の調査結果をもとに、中学校及び高等学校における数学教育の現状と課題について考察する。そして、これまでの学習指導要領をもとに、数学教育の歴史的変遷を概観する。その上で、現行の中学校数学科学習指導要領と高等学校学習指導要領の目標や主な内容、全体構造、ポイントなどを考察する。さらに、数学科における基礎的な学習指導理論（情報機器及び教材・教具の活用も含む）や評価論を検討する。				
これらをふまえ、数学科における学習指導案の構成や基本的な作成方法を扱う。また、具体的な教材について、グループ別に実際に教材研究を行い、討議する。こうした活動を通じて、教材研究の基本的な視点や方法を習得する。				
その上で、本授業のまとめとして、中学校数学科及び高等学校数学科の具体的な教材について学習指導案を作成し、模擬授業を行う。また、模擬授業の振り返りによって、授業改善を行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、中学校及び高等学校における数学教育の現状と課題（各種の調査結果の考察）				
第2回：学習指導要領の変遷を視座とした数学教育の史的考察				
第3回：中学校数学科学習指導要領のポイント				
第4回：高等学校数学科学習指導要領のポイント				
第5回：数学科における目的・目標論				
第6回：数学科における学習指導理論（1）問題解決的な学習				
第7回：数学科における学習指導理論（2）情報機器及び教材・教具の活用				
第8回：数学科における評価論				
第9回：「数学的活動」を重視した授業				
第10回：数学科における学習指導案の作成、教材研究の実際				
第11回：模擬授業（1）中学校数学科の教材について				
第12回：模擬授業の振り返りと授業改善（第12回の模擬授業について）				
第13回：模擬授業（2）高等学校数学科の教材について				
第14回：模擬授業の振り返りと授業改善（第13回の模擬授業について）				
第15回：まとめ				
テキスト				
・文部科学省（2008）、『中学校学習指導要領解説・数学編』，教育出版.				
・文部科学省（2009）、『高等学校学習指導要領解説・数学編，理数編』，実教出版.				
参考書・参考資料等				
・数学教育学研究会編（2010）、『新訂 数学教育の理論と実際（中学校・高等学校（必修））』，聖文新社.				
・中原忠男編（2000）、『算数・数学科重要用語300の基礎知識』，明治図書.				
学生に対する評価				
学習指導案（50％），レポート（30％），グループや全体における発表，協議の内容（20％）				

授業科目名：数学科教育 法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田信哉
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
小学校算数科，中学校数学科及び高等学校数学科の具体的な内容の授業の構想と，現職教諭によるその授業の実際との比較を通して，基礎的な学習指導理論を理解するとともに授業設計の方法を身につける。			
授業の概要			
本授業は，数学科教員としての実践的専門性を高めるという視点から，小学校算数科と中学校数学科及び高等学校数学科の授業を構想するとともに，現職教諭によるその授業の実際を視聴・分析し，批判的な検討に基づく授業提案を行う能力を育成することを目的とする。具体的には，典型的な内容を取り上げ，その内容に関する系統性や学習指導理論を学んだ上で，その内容の授業を構想して学習指導案の形でまとめる。次に，現職教諭によるその内容の実際の授業を視聴し，子どもの思考などの実態や最新の実践研究の動向を学びながら，自分の構想と比較して授業設計を行う方法を身に付ける。小学校から高等学校までこのようなサイクルを回すことで，学校数学の系統的な全体構造を理解することにもつながっていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：小学校下学年における算数科授業の構想			
第3回：小学校下学年における算数科授業の視聴と議論			
第4回：小学校上学年における算数科授業の構想			
第5回：小学校上学年における算数科授業の視聴と議論			
第6回：中学校数学科「数と式」領域における授業の構想			
第7回：中学校数学科「数と式」領域における授業の視聴と議論			
第8回：中学校数学科「図形」領域における授業の構想			
第9回：中学校数学科「図形」領域における授業の視聴と議論			
第10回：中学校数学科「関数」領域における授業の構想			
第11回：中学校数学科「関数」領域における授業の視聴と議論			
第12回：中学校数学科「データの活用」領域における授業の構想			
第13回：中学校数学科「データの活用」領域における授業の視聴と議論			
第14回：高等学校における数学科授業の視聴と議論			
第15回：まとめ			
テキスト			
・文部科学省（2008），『中学校学習指導要領解説・数学編』，教育出版。 ・文部科学省（2009），『高等学校学習指導要領解説・数学編，理数編』，実教出版。 ・文部科学省（2008），『小学校学習指導要領解説・算数編』，東洋館出版社。			
参考書・参考資料等			
・数学教育学研究会編（2010），『新訂 数学教育の理論と実際（中学校・高等学校（必修））』，聖文新社。 ・九州算数教育研究会編，『改訂・算数科教育の研究と実践』，日本教育研究センター。 ・数学教育学研究会編（2010），『新訂・算数教育の理論と実際』，聖文新社。 ・中原忠男編（2000），『算数・数学科重要用語300の基礎知識』，明治図書。			
学生に対する評価			
・レポート（80％），グループや全体における発表，協議の内容（20％）			

授業科目名：数学科教育 法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田信哉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 1. 中学校数学科及び高等学校数学科の目標と内容について理解するとともに、数学科の系統的な構造について理解する。 2. 中学校数学科及び高等学校数学科における教材・教具の効果及びその活用法について理解する。 3. 中学校数学科及び高等学校数学科の教材研究の具体的方法を理解する。			
授業の概要 本授業は、中学校数学科及び高等学校数学科の教材についての理解を深めることを目的としている。具体的には、中学校数学科及び高等学校数学科の主な内容に関する教材の数学的背景と認知的背景を知ることを通して、それらの指導上の留意点について理解する。また数学科において、教具は教材と同義なものとなみなされているため、その効果や具体的事例を知ることを通して、その活用法を理解する。さらに、教材研究には主に教材解釈と教材開発があるが、前者については教科書比較の手法を、後者については素材の教材化と既存の教材のアレンジの視点を知ることを通して、教材研究の具体的な方法を理解する。特に、既存の教材のアレンジのストラテジーである「What if not?」を学ぶことで、ある教材を発展・探究して新たな教材として位置づける手法を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：数学科における教材に関する基本的概念 第3回：中学校数学科「数と式」領域の教材の数学的・認知的背景 第4回：中学校数学科「図形」領域の教材の数学的・認知的背景 第5回：中学校数学科「関数」領域の教材の数学的・認知的背景 第6回：中学校数学科「データの活用」領域の教材の数学的・認知的背景 第7回：高等学校数学科「数学Ⅰ・A」の教材の数学的・認知的背景 第8回：高等学校数学科「数学Ⅱ・B」の教材の数学的・認知的背景 第9回：高等学校数学科「数学Ⅲ」の教材の数学的・認知的背景 第10回：数学科における教具に関する基本的概念 第11回：数学科における教具の具体的事例 第12回：教材研究の具体的方法（1）教科書比較 第13回：教材研究の具体的方法（2）教材開発の視点 第14回：教材研究の具体的方法（3）What if not? による教材開発 第15回：まとめ			
テキスト ・文部科学省（2008），『中学校学習指導要領解説・数学編』，教育出版. ・文部科学省（2009），『高等学校学習指導要領解説・数学編，理数編』，実教出版.			
参考書・参考資料等 ・数学教育学研究会編（2010），『新訂 数学教育の理論と実際（中学校・高等学校（必修））』，聖文新社. ・中原忠男編（2000），『算数・数学科重要用語300の基礎知識』，明治図書.			
学生に対する評価 ・レポート（80％），グループや全体における発表，協議の内容（20％）			

授業科目名： 数学科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田信哉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 中学校数学科及び高等学校数学科における学習指導案の構成に関する理解を深めるとともに、学習指導案を実際に作成する能力を高める。 2. 中学校数学科及び高等学校数学科における典型的な教材について、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができるようにする。 3. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善に関する能力を高める。			
授業の概要			
本授業では、「数学科教育法Ⅰ～Ⅲ」の授業をふまえ、教材研究や学習指導案の作成、授業構成などに関する能力を一層高めることをねらいとする。 具体的には、中学校数学科及び高等学校数学科における典型的な領域あるいは科目の教材をとりあげ、「教材研究→学習指導案の作成→模擬授業の実施とその振り返り→授業の改善」から成るサイクルを繰り返すことによって、具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができるようにする。また、そうしたサイクルを通じて、数学科における目的・目標や学習指導理論、評価法に関する理解を一層深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、数学科における学習指導理論（情報機器及び教材・教具の活用も含む）、評価論 第2回：数学科における授業の実践（DVDの視聴と協議） 第3回：教材研究と学習指導案の作成（1）（中学校の教材①）〔グループ別〕 第4回：模擬授業とその協議（1）〔全体〕 第5回：模擬授業の振り返りと授業改善（1）〔グループ別及び全体〕 第6回：教材研究と学習指導案の作成（2）（中学校の教材②）〔グループ別〕 第7回：模擬授業とその協議（2）〔全体〕 第8回：模擬授業の振り返りと授業改善（2）〔グループ別及び全体〕 第9回：教材研究と学習指導案の作成（3）（高等学校の教材①）〔グループ別〕 第10回：模擬授業とその協議（3）〔全体〕 第11回：模擬授業の振り返りと授業改善（3）〔グループ別及び全体〕 第12回：教材研究と学習指導案の作成（4）（高等学校の教材②）〔グループ別〕 第13回：模擬授業とその協議（4）〔全体〕 第14回：模擬授業の振り返りと授業改善（4）〔グループ別及び全体〕 第15回：まとめ			
テキスト			
・文部科学省（2008），『中学校学習指導要領解説・数学編』，教育出版。 ・文部科学省（2009），『高等学校学習指導要領解説・数学編，理数編』，実教出版。			
参考書・参考資料等			
・数学教育学研究会編（2010），『新訂 数学教育の理論と実際（中学校・高等学校（必修））』，聖文新社。 ・中原忠男編（2000），『算数・数学科重要用語300の基礎知識』，明治図書。			
学生に対する評価			
学習指導案（50％），レポート（30％），グループや全体における発表，協議の内容（20％）			

教科番号	6519	授業科目名	技術科教育法Ⅰ	
教員免許取得のための必修科目			3年	
開講時期	前期	単位数	2単位	
担当教員名	中園政彦		担当形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）			
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
【授業の到達目標及びテーマ】				
中学校「技術・家庭科」技術分野の指導に必要な基礎的・基本的知識や技能について理解し、将来の中学校教員としての資質・能力を身に付けさせる。				
【授業の概要】				
科学と技術の関係から技術教育の必要性を理解させ、技術の歴史と発展、教育改革と技術・家庭科教育の変遷から中学校学習指導要領の「技術・家庭科」の内容がどのように変わってきたかを解説し理解を図る。				
【授業計画】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	科学と技術	科学と技術の関係を人間の文明の歴史を取り上げ解説する。	テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。	30 60
2	技術科と他教科との関連	理科，社会，総合，数学との関連をまとめさせる。	配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
3	学校教育制度の変遷と技術教育	諸外国の技術教育の変遷とその背景を学ぶ。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業プリントを復習。	30 60
4	技術の歩みと技術教育	諸外国の技術教育歩みをまとめる。ドイツ，ロシア，イギリス，米国	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。小テストの準備。	30 60
5	我が国の技術科教育の変遷1	徒弟制手工業の時代から戦前までを解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の復習をする。	60 60
6	我が国の技術科教育の変遷2	戦後の技術科教育の変遷を解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の復習をする。	120 60
7	新学習指導要領	改訂の背景とねらいについて現行のそれと比較しながら解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の復習をする。	60 60
8	技術・家庭科の目標・内容1	技術・家庭科の目標の変更点とねらいを解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の復習をする。	30 60
9	技術・家庭科の目標・内容2	各内容の指導方法について解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
10	学習指導計画	指導内容をどの順序で何時間かけて指導するかを解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
11	学習指導計画作成	3年間を見通した指導計画の作成を演習する。	指導計画を各自作成させる。	120
12	技術科の運営1	準備室，教室の整理整頓の必要性を解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
13	技術科の運営2	授業を通した生徒管理の必要性を解説する。	テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。	30 60
14	技術科教師の出番	学校教育の中で技術科教師の活躍する場面を学生と語る。	テキスト（該当箇所を指示する）を読む。	60 60
15	まとめ	技術科教育の重要性をディスカッションさせ意識を高める。	小テストの準備。 ノートの整理とまとめ。	60 60
	定期試験			
【テキスト】 教師のための実践的技術科教育論 中園政彦 著 青葉印刷				
【参考書・参考資料等】 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」文部科学省，中学校「技術・家庭科」				
【学生に対する評価】 試験 60%，レポート 40%，総合的に判断し評価する				

教科番号	6520	授業科目名	技術科教育法Ⅱ				
教員免許取得のための必修科目				3年			
開講時期	後期	単位数	2単位	担当教員名	中菌政彦	担当形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）						
施行規則に定める科目区分又は事項等			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校「技術・家庭科」技術分野の指導に必要な基礎的・基本的な知識・技能について理解し、将来の中学校技術科教員としての資質・能力を身に付けさせる。							
【授業の概要】 中学校学習指導要領の「技術・家庭科」の内容と学習指導について解説し、目標達成のための指導に必要な基礎的・基本的な知識・技能と効果的な指導（含む教育機器の活用）を解説する。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題（予習・復習）		時間(分)	
1	法と教科教育	教育基本法・学校教育法と技術科教育についてそれぞれの関係を解説する。		テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。		30 60	
2	技術科教育の意義と役割	技術科担当教師の重要な役割について考えさせる。		テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。		60 60	
3	「A材料と加工」の指導法の研究 1	「A材料と加工」の内容と指導上の留意点を解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業プリントを復習。		30 60	
4	「A材料と加工」の指導法の研究 2	具体的な展開を相互に話し合わせる。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。指導案の事前準備		30 60	
5	「A材料と加工」の指導法の研究 3	具体的な指導案を作成させる。		事前に指導案を作らせる。		120	
6	「B生物育成」の指導法の研究 1	「B生物育成」の内容と指導上の留意点を解説する。		ディスカッションの内容をまとめる。期日設定し、提出する。		120 60	
7	「B生物育成」の指導法の研究 2	「B生物育成」の具体的な指導案を作成させる。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。指導案の事前準備		60 60	
8	「Cエネルギー変換」の指導法の研究 1	「Cエネルギー変換」の内容と指導上の留意点を解説する。		配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
9	「Cエネルギー変換」の指導法の研究 2	「Cエネルギー変換」の具体的な展開を相互に話し合わせる。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。指導案の事前準備		30 60	
10	「Cエネルギー変換」の指導法の研究 3	「Cエネルギー変換」の具体的な指導案を作成させる。		事前に指導案を作らせる。		120	
11	「D情報」の指導法の研究 1	「D情報」の内容と指導上の留意点を解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
12	「D情報」の指導法の研究 2	「D情報」の具体的な指導案を作成させる。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。指導案の事前準備		30 60	
13	教育機器の活用	技術科の授業では実物、映像教材が効果的である事例を解説する。		配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
14	自作教材の必要性	教科の目標達成には自作教材・教具が不可欠である事例を提示し解説する。		配布プリントを読みまとめる。授業の内容を復習する。		60 60	
15	技術分野の指導法改善	指導法改善についてディスカッションさせて指導意欲を高める。		指導法改善について前もってまとめておく。内容を復習する。		60 60	
	定期試験						
【テキスト】 「教師のための実践的技術科教育論」 中菌政彦 著 青葉印刷							
【参考書・参考資料等】 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」 文部科学省							
【学生に対する評価】 試験60％、レポート40％総合的に判断し評価する。							

教科番号	6521	授業科目名	技術科教育法Ⅲ				
教員免許取得のための選択科目			4年				
開講時期	前期	単位数	2単位	担当教員名	中菌政彦	担当形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）						
施行規則に定める科目区分又は事項等			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校「技術・家庭科」技術分野の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能について理解し、将来の中学校技術科教員としての資質・能力を身に付けさせる。							
【授業の概要】 教育実習を前提に「技術・家庭科（技術分野）」の指導と評価の一体性について解説すると共にフローチャートを用いた指導案の作成をさせ、模擬授業と授業研究の演習を通して授業設計の基礎を身に付けさせる。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題（予習・復習）		時間(分)	
1	先輩の体験した教育実習	先輩の経験を基に教育実習の実情を知らせ、心の準備をさせる。		テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。		30 60	
2	主体的な学習	学習意欲と知的好奇心・主体的学習の関係について具体的に解説する。		テキスト（該当箇所を指示する）を読む。授業プリントを復習。		60 60	
3	学習理論の進化	教師主導の学習、問題解決学習、問題解決的学習の長所と短所を解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業プリントを復習。		30 60	
4	指導と評価の一体化 1	診断的評価、形成的評価とKR情報の与え方を解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
5	指導と評価の一体化 2	テスト問題の工夫と総括的評価の工夫について解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		120	
6	授業設計1	教材研究による指導内容の深い理解の必要性について解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		120 60	
7	授業設計2	ワークシート、板書計画、口述書の準備について解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		60 60	
8	授業設計3	学習目標達成のための学習形態の工夫と授業分析について解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
9	授業設計4	教材・教具（自作教具）の必要性和効果について解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		30 60	
10	授業設計5	フローチャートを用いた学習指導案の実際例を解説する。		テキスト（該当箇所）を読みまとめる。授業の内容を復習する。		120	
11	学習指導案の設計 1	題材を提示して演習をさせる。		事前に指導案を作らせる。		120	
12	学習指導案の設計 2	題材を提示して演習をさせる。		事前に指導案を作らせる。		120	
13	模擬授業の実施1	各自の学習指導案を基に模擬授業と授業研究を演習させる。		模擬授業の反省と改善策をまとめる。		120	
14	模擬授業の実施2	各自の学習指導案を基に模擬授業と授業研究を演習させる。		模擬授業の反省と改善策をまとめる。		120	
15	まとめ	模擬授業を通して学んだことと改善策についてディスカッションさせる。		模擬授業の反省と改善策をまとめておく。		120	
	定期試験						
【テキスト】 「教師のための実践的技術科教育論」 中菌政彦 著 青葉印刷							
【参考書・参考資料等】 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」文部科学省 中学校「技術・家庭科」							
【学生に対する評価】 レポート・学習指導案50%、模擬授業50%総合的に判断し評価する。							

教科番号	6552	授業科目名	技術科教育法Ⅳ				
教員免許取得のための選択科目			4年				
開講時期	後期	単位数	2単位	担当教員名	中菌政彦	担当形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）						
施行規則に定める科目区分又は事項等			教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目				
【授業の到達目標及びテーマ】 中学校「技術・家庭科」技術分野の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能について理解し、将来の中学校技術科教員としての資質・能力を身に付けさせる。							
【授業の概要】 教育実習での経験に基づき科学的根拠に基づいた教科研習を行わせ、指導方法改善に努めさせる。中学校「技術・家庭科」の現状と課題を理解させ、施設・設備の充実の方法や教室環境づくり、学習指導など教科経営について具体例を引きながら解説する。技術科教育の中で道德的な指導やキャリア教育としての技術科教育、これからの技術科教育について研究討議で考えさせていく。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題（予習・復習）		時間(分)	
1	中学校技術科教育の現状	教育実習の経験を基に情報交換させる。		中学校技術科教育の現状をまとめておく。		60	
2	中学校技術科教育の課題	教育実習の経験を基に情報交換させる。		中学校技術科教育の課題と対策についてまとめておく。		60	
3	技術科教室の施設・設備	教育実習の経験を基に整理・整頓の状況を情報交換させる。		技術科教室の施設・設備の有るべき状況を整理しておく。		60	
4	技術科と安全教育	授業中の安全確保と条件整備について解説する。		テキスト（該当箇所）を読み、授業の内容を復習する。		60	
5	授業改善1	教育実習中の授業を改善して模擬授業をさせて授業研究 A君		模擬授業と授業研究の内容を整理しておく。		120	
6	授業改善2	教育実習中の授業を改善して模擬授業をさせて授業研究 Bさん		模擬授業と授業研究の内容を整理しておく。		120	
7	授業改善3	教育実習中の授業を改善して模擬授業をさせて授業研究させる。C君		模擬授業と授業研究の内容を整理しておく。		120	
8	授業改善4	教育実習中の授業を改善して模擬授業をさせて授業研究させる。D君		模擬授業と授業研究の内容を整理しておく。		120	
9	授業改善5	教育実習中の授業を改善して模擬授業をさせて授業研究させる。E君		模擬授業と授業研究の内容を整理しておく。		120	
10	単元指導計画の作成	数時間分の指導計画案を作成させる。レポート提出させる。		数時間分の指導計画案を作成してレポートを提出する。		120	
11	技術科教育と学習訓練	工具等の使用上の注意点について実演を基に理解させる。		テキスト（該当箇所）を読み、授業の内容を復習する。		120	
12	技術科教育と道德の関係	学習指導要領を基に解説する。		テキスト（該当箇所）を読み、授業の内容を復習する。		120	
13	キャリア教育としての技術科教育	キャリア教育と技術科教育の関連について研究討議させる。		研究討議のために、自分の考えをまとめておく。		120	
14	これからの技術科教育	技術科教育の方向性について研究討議させ、自分の考えを発表させる。		研究討議のために、自分の考えをまとめておく。		120	
15	まとめ	理想の技術科教師についてディスカッションをさせ夢と希望を持たせる。		ディスカッションのために自分の考えをまとめておく		120	
	定期試験					60	
【テキスト】 「教師のための実践的技術科教育論」 中菌政彦 著 青葉印刷							
【参考書・参考資料等】 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」文部科学省 中学校「技術・家庭科」							
【学生に対する評価】 レポート・学習指導案50%、模擬授業50%総合的に判断し評価する。							

教科番号	6522	授業科目名	工業科教育法Ⅰ (Teaching Theory of Technical EngineeringⅠ)				
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目（ 高校「工業」 ）		3年		
開講時期	前 期	単位数	2 単位	担当教員名	徳永 博仁	担当形態	単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
【授業の到達目標及びテーマ】							
高校「工業」の教員を目指す学生にとって必要な教科「工業」の基礎的基本的な知識と技術を習得するとともに、その目標と役割を理解し、学習指導や技術指導など実践的指導力を身につける。 また、教育課程や年間指導計画、学習指導案等についても理解を深める。							
【授業の概要】							
学習指導要領の教科「工業」の内容や学校をとりまく環境の変化や教育改革等について情報機 器を積極的に活用して解説するとともに、情報機器及び教材の効果的な活用法を紹介する。 また、本学卒業の教師の体験談や学校現場の優れた実践事例などの情報を多く取り入れ理解の深化を図る。 更に、工業教育への実践的指導力を涵養するするため、模擬授業やアクティブ・ラーニングを実施する。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学 習 課 題（予習・復習）		時間(分)	
1	オリエンテーション	工業科教育法Ⅰの内容について要点を確認。工業高校の現状を解説する。		教師のあるべき姿について考察する 授業の内容を復習する。		30 60	
2	工業教育の目的と役割	技術立国日本を支えてきた工業高校卒技術者の姿や「ものづくりは人づくり」の意味について解説		教師のあるべき姿について考察する 授業の内容を復習する。		30 60	
3	工業教育の変遷（その1）	戦前の工業教育について「明治～大正～昭和初期」		明治～大正時代の日本の姿について 授業の内容を復習する		30 60	
4	工業教育の変遷（その2）	戦後の工業教育と教育改革、新制高校発足から現在に至るまでの変遷		戦後の日本の経済復興と「工業高校卒技術者の活躍」についてまとめる		30 60	
5	教育関係法規と学習指導要領	憲法・教育基本法・学校教育法など関係法令と学習指導要領について解説する。		提出課題のまとめ 授業の内容を復習する		30 60	
6	学習指導要領と教科「工業」の規定	教科「工業」に関する諸規定について解説する。		学習指導要領[工業]編の資料を一読 諸規定について再度確認する		60 60	
7	工業科の教育課程と学習指導	教育課程編成と学習指導上の留意点について説明と前時の小テストの実施		小テストへの準備。KR情報など学習指導の要点を復習する		60 60	
8	学習指導案作成（その1）	学習指導案の形式と作成上の留意点・・・作成演習		学習指導案の意義について調べる 課題「学習指導案の作成」について		60 100	
9	学習指導案作成（その2）	学習指導案作成演習と課題テスト		課題のまとめ 模擬授業に備えて説明の仕方の考察		60 60	
10	模擬授業（その1）	模擬授業と授業研究 情報機器の効果的活用		模擬授業課題の説明の仕方について 自分の模擬授業とその評価を省みる		60 60	
11	模擬授業（その2）	模擬授業と授業研究 学生間の授業評価と討議		模擬授業の説明の仕方について 自分の模擬授業とその評価を省みる		60 60	
12	「工業科教育法」の実践～先輩講話	第一工大卒業教師による工業教育の実践講話		工業科教師のあるべき姿について考察する。課題先輩教師の講話感想のまとめ		30 100	
13	「実習」「製図」「課題研究」の指導	「ものづくり教育」の中心となる実技的科目の指導上の留意点		提出課題のまとめ 授業の内容を復習する		30 60	

14	工業教育の現状と課題	工業高校の現状と学校活性化に向けた様々な取組	学校活性化方策について調べる 授業の内容を復習する	30 60
15	まとめ	授業全体を振り返り要点を再確認する	配付資料の整理 期末テストに備え授業の内容を復習	60 100
	定期試験			
【テキスト】 テキストは特に定めない。毎時間、授業の骨子・内容に関するプリントを用意する。				
【参考書・参考資料等】 高等学校学習指導要領解説「工業」 文部科学省 実教出版 「工業科教育法の研究」 池守 滋他共著 実教出版				
【学生に対する評価】 [資料整理,課題提出,ノート取得状況]（35％），[定期試験]（65％） で総合的な評価を行う。				

教科番号	6523	授業科目名	工業科教育法Ⅱ (Teaching Theory of Technical Engineering Ⅱ)				
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目 (高校「工業」)		3年		
開講時期	後 期	単位数	2単位	担当教員名	徳永 博仁	担当形態	単 独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)				
【授業の到達目標及びテーマ】							
法令や学習指導要領を踏まえ、工業科の教育課程と学習指導について理解を深め、「工業科教育法Ⅰ」の学習内容に加え、工業高校の各種の教育活動について理解する。また、工業高校における「ものづくり教育」の実践に必要な知識・技術についても習得する。							
【授業の概要】							
「工業科教育法Ⅰ」学習との関連を図りながら、工業教育に関する必要な基礎的・基本的事項や教育活動について情報機器などを利用し解説する。同時に情報機器及び教材の効果的な活用法について紹介する。更に、学生が専攻する学科の科目について指導案の作成演習・模擬授業やアクティブ・ラーニングによる授業研究とともに第一工大卒業教師による講話等により実践的指導力の向上を図る。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題 (予習・復習)		時間(分)	
1	オリエンテーション	工業科教育法Ⅰの総括と教員採用試験の現況等		工業科教育法Ⅰの資料を復習する 配付資料の学習内容を復習する		30 60	
2	学校運営 (その1)	工業高校と教育行政機関について解説する		事前に配付した資料を読む 配付資料の学習内容を復習する		30 60	
3	学校運営 (その2)	校務分掌と職員会議について解説する		校務分掌・職員会議について調べる。学習内容を復習する。		60 60	
4	学校運営 (その3)	工業高校の PTA・学級経営についてその役割を説明する		学級担任の任務について調べる 学習内容を復習する		60 60	
5	教師の研修体制	初任者研修・経験者研修・自主研修等について		初任者研修の目的について調べる。学習内容を復習する。		30 60	
6	工業高校の教育改革 (その1)	ドイツのマイスター制度とデュアルシステムを取り入れた工業教育について		マイスター制度とは何か予習して望む。デュアルシステムの内容について復習する。		60 60	
7	工業高校の教育改革 (その2)	工業高校の活性化の取組(ものづくり競技・資格取得等)を紹介する。		ジュニアマイスター顕彰について調べる。学習内容を復習する。		30 60	
8	工業高校におけるキャリア教育	インターンシップなどキャリア教育について解説する		キャリア教育とは何か調べる 学習内容を復習する		30 60	
9	学習指導 (その1)	学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導案を作成する		工業科教育法Ⅰの資料を復習する。 提出課題の指導案を作成する。		30 60	
10	学習指導 (その2)	課題の指導案を基にした模擬授業とその内容を全体で討議する		授業の導入・展開の要点を復習する。学習内容を復習する。		30 60	
11	学習指導 (その3)	課題の指導案を基にした模擬授業とその内容を全体で討議する		生徒の評価について調べる 学習内容を復習する		30 60	
12	工業教育の実践 (先輩教師の講話)	第一工大OB教師の講話により優れた教育実践を学ぶ		教師のあるべき姿について考える 提出課題 (講話の感想) をまとめる		30 100	
13	望ましい教師像	工業教育をとおして倫理観を育む。また、教師のあるべき姿について討議する		工業教育に関する配付資料を読む。 討議内容を整理する。		30 60	
14	工業高校における環境教育	教科「工業」の目標に従い環境問題について説明する		地球温暖化について調べる。課題「環境問題と工業教育の役割」をまとめる		30 100	
15	まとめ	工業教育の基本事項について総括する		これまでの配付資料の整理をする 工業教育全般について復習する		30 60	
	定期試験						
【テキスト】 テキストは特に定めない。毎時間、授業の骨子・内容に関するプリントを用意する。							

【参考書・参考資料等】	高等学校学習指導要領解説 教科「工業」編 文部科学省 実教出版
	「工業科教育法の研究」 池守 滋他共著 実教出版
【学生に対する評価】	【資料整理,課題提出,ノート取得状況】（３５％），【定期試験】（６５％）
	で総合的な評価を行う。

教科番号		授業科目名	道徳教育（Moral Education）				
教員免許取得のための必修科目／選択科目							
開講時期	3 年前期	単位数	2 単位	担当教員名	藤坂 由美子	担当形態	単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			道徳の理論および指導法				
【授業の到達目標及びテーマ】							
これまでの日本の道徳教育の歩みを踏まえながら、現在の学校教育における道徳教育の目標や道徳科の指導計画と授業実践に関する知識・技能を身につけ、教員となるための徳性の涵養と道徳教育の実践力の向上を目指す。							
【授業の概要】							
道徳および道徳教育とは何かについて、その意義や原理、道徳性の発達について理解する。また、日本の道徳教育の歴史を理解し、現代社会における道徳教育の課題について考え、学校で取り組む道徳教育や道徳科の役割、指導法と評価のあり方に関する知識や技能を身につける。							
回数	題 目	授 業 内 容			学習課題（予習・復習）		時間(分)
1	道徳の本質	【授業計画】			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
2	道徳の意義と課題	道徳教育の意義と課題			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
3	道徳性の発達	道徳性の発達理論			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
4	道徳教育の歴史	日本の道徳教育の歴史① （戦前における修身教育）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
5	道徳教育の歴史	日本の道徳教育の歴史② （戦後の教育改革と道徳教育）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
6	道徳教育の目標	学習指導要領と道徳科の目標			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
7	道徳科の内容 A と指導法	主として自分自身に関すること （教材や授業展開の工夫）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
8	道徳科の内容 B と指導法	主として人とかかわりに関すること （教材や授業展開の工夫）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
9	道徳科の内容 C と指導法	主として集団や社会との関わりに関すること （教材や授業展開の工夫）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
10	道徳科の内容 D と指導法	主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること （教材や授業展開の工夫）			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
11	道徳教育の推進	学校全体で取り組む道徳教育			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
12	道徳教育の指導計画	年間計画と学習指導案			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
13	道徳教育の評価	学習評価と教師の授業評価			テキストの予習 授業プリントの復習		30 60
14	道徳科の指導	模擬授業の計画			学習指導案の作成 授業の準備		120 120
15	道徳科の指導	模擬授業の実践と評価			予習、授業の準備 学習指導案の振り返り		60 60
【テキスト】 柳沼良太『道徳の理論と指導法～「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む～』図書文化社（2017 年）定価 2,200 円							
【参考書・参考資料等】 中学校学習指導要領解説 道徳編 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？－「生きづらさ」の背景を探る－』2011 年、日本図書センター 他 授業中に随時紹介する。							
【学生に対する評価】 出席及び授業参加の状況（30％）、レポート（30％）、指導案作成と模擬授業（40％）で総合的な評価を行う。							

教科番号	6563	授業科目： 特別活動論 (Special Curricular Activities)		
開講時期	後期	(全) 学科	(3) 年 (2) 単位	担当者： 植村 秀人
【授業の到達目標】				
学校教育における特別活動について、その目標・教育的意義など学習指導要領等を通して理解するとともに、生徒理解や指導方法等について習得してその後の教育実習等に生かせるようにする。				
【授業の概要】				
学校における特別活動の目標・教育的意義、特別活動の内容と指導方法等を講義で学ぶとともに、学教活動を通してディスカッションやグループ活動等も積極的に取り入れて実施する。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	特別活動とは	特別活動の目標と内容	テキスト(P7~12)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
2	特別活動の意義	特別活動の意義、歴史的変遷	テキスト(P12~17)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
3	特別活動と他の教育活動の関連	特別活動と各教科、道徳、総合、生徒指導との関連	テキスト(P17~24)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
4	特別活動の指導内容	望ましい人間関係づくり	テキスト(P25~44)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
5	学級活動の学習指導案づくり	例「情報社会におけるモラル」を題材にして作成	「学習指導案」とは何か、調べる。 授業の内容を復習する。	30 30
6	学級活動の学習指導案づくり	各自で、「学級活動学習指導案」を作成	「学習指導案」の構想を練る。 授業の内容を復習する。	60 30
7	学級活動の内容と指導	学級活動の指導計画、指導上の留意点	テキスト(P44~57)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
8	学級活動の実際	各自で学級活動を展開し、ディスカッションを行う	学級活動の構想を練る。 授業の内容を復習する。	30 30
9	学級活動の展開	望ましい話し合い活動、ディスカッションを行う	話し合い活動の構想を練る。 授業の内容を復習する。	30 60
10	生徒会活動の指導	生徒会活動の組織と内容、意義 活動計画と運営	テキスト(P58~73)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
11	クラブ活動の内容と指導	クラブ活動、部活動の意義・内容とその指導	クラブ活動の推移について、調べる。 授業の内容を復習する。	30 30
12	学校行事の内容と指導	学校行事の意義と内容	テキスト(P74~91)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
13	特別活動における評価	特別活動の評価と内容、各領域における評価	テキスト(P105)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
14	特別活動の課題	特別活動の充実と内容	テキスト(P1~6)を読み理解する。 授業の内容を復習する。	30 30
15	課題解決とまとめ	課題を挙げさせディスカッションをしながらまとめる	プリントの整理・まとめをする。 テストに備え、準備をする。	30 120
【テキスト】 「中学校学習指導要領解説 特別編」文部科学省 編 株式会社ぎょうせい				
【参考書・参考資料等】 参考資料等を、授業中に適宜配布する。				
【成績評価基準・方法】				
ノート取得状況&受講態度 (30%)、レポート (10%)、試験 (60%) で総合的な評価を行う。				

授業科目	教育の方法と技術	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：新地辰朗
開講時期	前 期 3年			
科目番号：6564		教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが必要な事項		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
【授業の到達目標及びテーマ】				
教員の ICT 活用指導力の意義や内容を理解する。また、情報メディアを効果的に活用する授業を構想し、実践できる基礎的な力量を習得する。				
【授業の概要】				
本講義では、学校教育における情報メディア活用の歩みを整理しながら、情報メディアの種類や機能、映像の認知、情報メディアを活用する児童生徒の学力等を検討し、情報化が進む学校教育における学びのあり方、さらに教師に求められる力量としての ICT 活用指導力について学ぶ。また、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した実践的指導力を習得するために、実際に教材を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業においては、授業構想力、授業実践力、そして授業評価力の3つの観点から、授業力を整理する。				
授業計画				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教育における情報メディア利用の歩み	科学技術の進展を捉えながら、教育において情報メディアに期待されてきた機能について解説する。	●テキスト1の第1章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
2	情報メディアの種類と機能	非投影系メディア、音声メディア、映画、放送メディア、コンピュータなど、情報メディアの種類を整理する	●テキスト1の第2章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
3	映像の認知と情報メディア利用の効果	映像のメッセージ性を整理した後に、人が映像等を認知する際の傾向等を検討する。	●テキスト1の第5章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
4	博物館・図書館での情報メディア活用	教育施設としての博物館・図書館における情報メディア活用を整理し、学校教育における効果的利用を考える。	●テキスト1の第4章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
5	情報メディアに関わる学力	国内外の動向を整理しながら、メディアについての教育や教員の ICT 活用指導力「C 児童（生徒）の ICT 活用を指導する能力」について解説する。	●テキスト1の第3章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第4章との関連を整理する。	4 5 4 5
6	「教育の情報化」の歩み	情報メディアの中でも、特にコンピュータやインターネットの活用に焦点を当て、学校教育における情報化の意義と歩みを整理する。	●テキスト1の第6章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第1章との関連を整理する。	4 5 4 5
7	教科指導における ICT 活用	ICT 活用指導力「A 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力」と「B 授業中に ICT を活用して指導する能力」について解説する。	●テキスト2の第3章を読み、まとめる。 ●テキスト2の第2、7章との関連を整理する	4 5 4 5
8	校務の情報化	ICT 活用指導力「E 校務に ICT を活用する能力」を解説しながら、校務の情報化の意義と普及状況を紹介する。	●テキスト2の第6章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
9	情報モラル教育	ICT 活用指導力「D 情報モラルなどを指導する能力」を解説し、情報モラル等を指導する際の留意点について整理する。	●テキスト2の第5章を読み、まとめる。 ●授業の内容を復習する。	4 5 4 5
10	授業実践演習 1-1	プレゼンテーションソフト（フラッシュ型教材等）による教材開発と授業デザイン	●教科等のねらいを達成するために有効なフラッシュ型教材を構想する。	9 0

11	授業実践演習 1-2	プレゼンテーションソフト（フラッシュ型教材等）を活用した模擬授業と相互評価	●フラッシュ型教材を活用する際の生徒への働きかけ方を整理する。 ●相互評価の結果を整理する。	45 45
12	授業実践演習 1-3	プレゼンテーションソフト（フラッシュ型教材等）を活用した授業の改善	●相互評価の結果を受け、フラッシュ型教材及び授業展開の改善方策をまとめる。	45 45
13	授業実践演習 2-1	映像コンテンツ活用を含む授業デザイン	●インターネット上に公開されている映像コンテンツを選択し、内容や構成の特徴を整理する。	90
14	授業実践演習 2-2	映像コンテンツを活用した模擬授業と評価	●模擬授業を振り返り、映像コンテンツの活用法及び授業展開について改善方策をまとめる。	45 45
15	まとめ	教育の情報化に関わる現状と課題を整理し、情報メディア活用に必要となる教師の力量について整理する	●ICT活用指導力など、メディアを教育的に活用する力量を自己評価し、改善策をまとめる。	90
【テキスト】 ・テキスト1 改訂・視聴覚メディアと教育 佐賀啓男 樹村房 ・テキスト2 教育の情報化に関する手引き 文部科学省 開隆堂出版				
【参考書・参考資料等】 新・教育の方法と技術、平田啓一・町田隆哉編、教育出版				
【成績評価基準・方法】 ノート取得状況&受講態度（40%）、レポート（30%）、試験（30%）で総合的な評価を行う。				

教科番号	6527	授業科目名	生徒指導	(Theory of Methods of Student Guidance)			
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目				
開講時期	後 期	単位数	2 単位	担当教員名	平井 正三郎	担当形態	単 独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			生徒指導の理論及び方法。進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法。				
【授業の到達目標及びテーマ】 生徒指導の原理や意義を理解し、適切な指導・援助が行えるように学習する。また、「いじめ」や不登校などの反社会的・非社会的行動の対応に関して具体的実践例を通して学習する。キャリア教育（進路指導）の原理や意義を理解し、ライフキャリアプランの理念および支援方法も学習する。さらに、アクティブ・ラーニングを取り入れた理念および支援方法も学習する。実践的な授業展開も学習する中で、以下の3 点を主な到達目標とする。 ① 生徒指導・キャリア教育（進路指導）の意義や原理、基礎的・基本的な知識を理解する。 ② 生徒指導・キャリア教育を通して、各生徒の進路実現に関わることの重要性を理解する。 ③ 生徒個々のライフキャリアプラン達成に向けて積極的な連携・支援のあり方を理解する。 【授業の概要】 知育・徳育・体育の三位一体によって人格の完成をめざす教育を実践するという教師の使命を、生徒指導およびキャリア教育の諸理論や具体的実践例の学習を通して、「生徒理解にはじまり生徒理解に終わる」生徒指導（進路指導含む）の本質に結びつくような授業展開をする。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容		学習課題（予習・復習）		時間(分)	
1	オリエンテーション	生徒指導・進路指導の重要性など 授業全般の概説		シラバスを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
2	学校システムとしての生徒指導	生徒指導の理念とその意義		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
3	生徒指導と教育課程	教育課程や教育経営との関連		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
4	生徒指導と他機関との連携	保護者や地域や他機関などとの連携		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
5	生徒指導と法令の関係	生徒指導における法律事項		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
6	生徒指導と生徒理解	生徒理解とアセスメント		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
7	事前的な生徒指導	予防及び開発的な対応と進路指導		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
8	生徒理解と教育相談	教育相談から進路相談（進路指導）へ		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
9	非社会的行動と生徒指導	不登校問題と実践事例		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
10	反社会的行動と生徒指導①	いじめ問題と実践事例		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 100	
11	反社会的行動と生徒指導②	非行などの問題行動と実践事例		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		60 60	
12	発達障害および緊急対応	特別支援と虐待への対応、危機管理		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
13	進路指導とキャリア教育	キャリア教育の意義と理論		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 60	
14	キャリア教育の推進	職業感・勤労観の育成と進路指導		プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。		30 100	
15	キャリア教育実践	中学校・高等学校でのキャリア教育実践		授業内容のまとめと小テストの準備。 ノートの整理とまとめをする。		60 100	
	定期試験						
【テキスト】 『よくわかる生徒指導・キャリア教育』小泉令三・編著〔ミネルヴァ書房〕 『生徒指導提要』（平成22年3月）文部科学省 教育図書							
【参考書・参考資料等】 適宜、講義の中で指示します。							
【学生に対する評価】 授業態度およびリアクシート（30％）、小テスト（20％）、定期試験（50％）などで総合的な評価を行う。							

教科番号	6528	授業科目名	教育相談（ Educational counseling ）				
教員の免許状取得のための必修科目							
開講時期	後 期	単位数	2 単位	担当教員名	平井正三郎	担当形態	単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
【授業の到達目標及びテーマ】							
教育相談は生徒が自己理解を図って個性を伸ばし人格の完成をめざす一方、「なかま」である他者理解を深める中で、好ましい対人関係を築いて集団の中での適応力を高めることもあわせて支援する。その際、生徒の発達状況に即応し、心理的特質や発達課題を適切に捉えた教育的支援ができることを目的にし、以下の3点を主な到達目標とする。							
① 学校における教育相談の意義と理論を理解し、その基礎・基本的な知識を理解する。							
② 教育相談を進めるためのカウンセリングの基本的な技法を理解する。							
③ 教育相談の具体的・実践的な支援のあり方、「チーム学校」の取り組みや連携の必要性を理解する。							
【授業の概要】							
知育・徳育・体育の三位一体によって人格の完成をめざす教育を実践するという教師の使命を、教育相談や学校カウンセリングの諸理論や具体的実践例の学習を通して、カウンセリングマインドをもった「教師力」・「人間力」が身につけられるような授業展開をする。							
【授業計画】							
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）			時間(分)	
1	オリエンテーション	教育相談の重要性など授業全般のガイダンス	テキスト（序論）を読んでまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30	60
2	カウンセリングマインド	教師に求められる臨床的視点、学級内での生徒理解のために	テキスト（第1章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	45
3	発達課題と教育相談	思春期・青年期の発達と支援。思春期危機とアイデンティティ	テキスト（第2章）を読みまとめる。 配布資料等、授業の内容を復習する。			60	30
4	問題行動と教育相談	学校現場の「問題の子」への対応・支援。生徒指導と生徒理解	テキスト（第3章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	45
5	特別支援教育と教育相談	発達障害の理解と支援。「気になる子ども」等への対応と支援	テキスト（第4章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	90
6	予防・開発的な教育相談	予防・開発・教育的な事前的支援。積極的学校カウンセリング体制	テキスト（第5章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	45
7	教師のメンタルヘルス	「チーム学校」。「問題の教師」への支援。燃えつき予防	テキスト（第6章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	60
8	モンスターペアレントへの対応	「問題の親」、保護者への支援。「モンベはいない」	テキスト（第7章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	60
9	学校システムと教育相談	校内のシステムとネットワーク。臨機応変な支援体制と危機管理	テキスト（第8章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			45	45
10	ケースカンファ	校内研修および事例検討会の意義と役割。	テキスト（第8章）を読みまとめる。 配布資料・授業の内容を復習する。			45	60
11	スクールカウンセラー	臨床心理士・公認心理師などとの連携、「チーム学校」	テキスト（第9章）を読みまとめる。 配布資料・授業の内容を復習する。			30	60
12	スクールソーシャルワーカー	SC とスクールソーシャルワーカー等との協働・連携	テキスト（第9章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30	60
13	「チーム学校」ケース・その1	学校内のコンサルテーション、管理職・同僚等との協働、連携	テキスト（第10章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30	60
14	「チーム学校」ケース・その2	学校外の医療・福祉・教育関係諸機関との協働、連携	テキスト（第10章）を読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。			30	60

15	教師のカウンセリングマインド	対人援助職としての「教師力」と「人間力」、総まとめ	プリントを読みまとめる。 配布資料等・授業の内容を復習する。	30 120
	定期試験			
【テキスト】 『よくわかる教育相談』（春日井敏之・伊藤美奈子 編著、ミネルヴァ書房）				
【参考書・参考資料等】 『生徒指導提要』文部科学省 教育図書〔*生徒指導論のテキスト〕 その他、適宜、講義の中で指示します。				
【学生に対する評価】 受講態度およびリアクションシート（30%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）などで総合的に評価をします。				

教科番号	6544	授業科目： 事前・事後指導（ Prior Afterward Guidance ）		
開講時期	前期	（全）学科（４）年（１）単位 担当者： 徳永 博仁		
【授業の到達目標】 教育実習の内容や方法等について学習し、教育実習を意義ある充実したものにするができることを目標にする。				
【授業の概要】 教育実習の内容や方法等について解説し、教育実習を意義ある充実したものにするために、教育実習の準備から終了までの過程を想定して授業を構成し、解説・学習していく。 特に、教育実習の中心課題である授業の展開については演習を通して知識と技術の習得に努め、また教育実習中に遭遇する課題ついて解説する。さらに、教育実習後には具体的な体験をもとにまとめをしていく。				
【授業要旨】				
回数	題 目	授 業 内 容	学習課題（予習・復習）	時間(分)
1	教育実習の目的と意義	教師養成と教育実習、教育実習の目標、教育実習の内容	シラバスを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
2	教育実習の事前研究	教育実習の事前研究、教育実習の形態、教育実習の評価項目	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
3	教育実習の心得	教育実習生の基本的な姿勢、教育実習の心得	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
4	教育実習の内容1	学校経営、学校の組織、生徒理解、教育課程	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
5	教育実習の内容2	生活指導、学級経営、学校保健、学校の施設と環境	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
6	授業設計、授業研究	教材研究の実際、学習指導の実際、授業研究の実際	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
7	教育実習直前の準備	教育実習日誌の意義、教育実習日誌の記入の留意点	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	30 60
8	学習指導案とその書き方	学習指導案の形式とその書き方(技術、数学、工業)	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
9	学習指導案の作成と指導の実際 1	学習指導案の作成と模擬指導1回目	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
10	学習指導案の作成と指導の実際 2	学習指導案の作成と模擬指導2回目	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
11	学習指導案の作成と指導の実際 3	学習指導案の作成と模擬指導3回目	プリントを読みまとめる。 授業の内容を復習する。	60 60
12	事後研究 1	報告書の作成、報告会、自己評価	テーマについて考えをまとめる。 ディスカッションの内容をまとめる	60 60
13	事後研究 2	教育実習のまとめと自己研鑽課題 1回目	テーマについて考えをまとめる。 ディスカッションの内容をまとめる	60 60
14	事後研究 3	教育実習のまとめと自己研鑽課題 2回目	テーマについて考えをまとめる。 ディスカッションの内容をまとめる	60 60
15	事後研究 4	教育実習のまとめと自己研鑽課題 3回目	テーマについて考えをまとめる。 ディスカッションの内容をまとめる	60 60
【テキスト】 プリント、資料				
【参考書・参考資料等】 教育実習完全ガイド 山崎英則編著 ミネルヴァ書房				
【成績評価基準・方法】 ノート取得状況&受講態度（30%）、レポート（30%）、試験（40%）で総合的な評価を行う。				

教科番号	6545	授業科目名	教育実習Ⅰ（student teachingⅠ）			
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目（中学校「技術」、高等学校「工業」） ※ 中学校「技術」については、「教育実習Ⅱ」を履修すること。			
開講時期	4年前期	単位数	2単位	担当教員名	徳永博仁	
科目	教育実践に関する科目		担当形態	当該実習校の指導教員との連携		
施行規則に定める科目区分又は事項等			教育実習（学校インターシップ（学校体験活動）を1単位まで含むことができる。）			
【授業の到達目標及びテーマ】 学校現場において指導教員を中心にした教育実習の体験をとおして、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚し教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標としている。						
【授業の概要】 教育実習は、実習校において観察・参加・実習という方法で教育実践に関り、学校教育の実際を体験的・総合的に学修し、生徒の実態、学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。また、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。						
【授業計画】						
題目と授業の内容 1 教育実習は10日間（2週間）とする。 2 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 （1）生徒との関わりを通して、学級や生徒の実態を理解押し課題を把握することができる。 （2）指導教員等が実施する授業を視点を持って観察することができる。また、事実在即して記録することもできる。 （3）教育実習校の学校運営について、学校経営方針や特色ある教育活動とそれらを実施するための組織体制について理解できる。 （4）学級担任や教科担任等の実務を理解し、補助的な役割を担うことができる。 3 学習指導及び学級経営に関する事項 （1）授業について教材研究をしっかりと行い、学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し授業を展開することができる。 （2）指導教員等の授業を参観することで、学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）の効果的な活用を観察し、自らの授業でも適切な場面で情報機器など効果的に活用できる。 （3）担任が行う朝や終了時のショートホームルーム（SHR）また、学級日誌や生活日誌など生徒との関わりを観察し、学級担任の役割と職務内容について実地に即して理解できる。また、様々な活動の場面で適切に生徒と関わる事ができる。						
【テキスト】 教育実習の手引き、資料プリント						
【参考書・参考資料等】 授業中に資料プリントを適宜配布する。 中学校学習指導要領解説「数学」「技術・家庭」、高等学校学習指導要領解説「工業」						
【学生に対する評価】 教育実習校から送られてくる「教育実習成績評価表」、レポート「教育実習を終えて」の評価などを総合的に評価する。						

教科番号	6546	授業科目名	教育実習Ⅱ（student teachingⅡ）				
教員免許取得のための必修科目／選択科目			必修科目（中学校「技術」）				
開講時期	4年前期	単位数	2単位	担当教員名	徳永博仁		
科 目	教育実践に関する科目		担当形態	当該実習校の指導教員との連携			
施行規則に定める科目区分又は事項等			教育実習（学校インターシップ（学校体験活動）を1単位まで含むことができる。）				
【授業の到達目標及びテーマ】 学校現場において指導教員を中心にした教育実習の体験をとおして、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚し教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標としている。							
【授業の概要】 教育実習は、実習校において観察・参加・実習という方法で教育実践に関り、学校教育の実際を体験的・総合的に学修し、生徒の実態、学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。また、大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。							
【授業計画】							
題目と授業の内容 1 中学校教員免許取得希望者は、10日間（2週間）の教育実習に引き続き、更に5日間（1週間）の実習を行うこととする。 2 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 （1）生徒との関わりを通して、学級や生徒の実態を理解し課題を把握することができる。 （2）指導教員等が実施する授業を視点を持って観察することができる。また、事実即して記録し分析することもできる。 （3）教育実習校の学校運営について、学校経営方針や特色ある教育活動とそれらを実施するための組織体制について理解できる。 （4）学級担任や教科担任等の実務を理解できる。 3 学習指導及び学級経営に関する事項 （1）授業について教材研究をしっかり行い、学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し授業を実践することができる。 （2）指導教員等の授業を参観することで、学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）の効果的な活用を観察し、自らの授業でも適切な場面で情報機器など効果的に活用できる。 （3）担任が行う朝や終了時のショートホームルーム（SHR）また、学級日誌や生活日誌など生徒との関わりを観察し、学級担任の役割と職務内容について実地に即して理解し、補助的な役割を担うことができる。 （4）教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。							
【テキスト】 教育実習の手引き、資料プリント 【参考書・参考資料等】 授業中に資料プリントを適宜配布する。 中学校学習指導要領解説「数学」「技術・家庭」、高等学校学習指導要領解説「工業」							
【学生に対する評価】 教育実習校から送られてくる「教育実習成績評価表」、レポート「教育実習を終えて」の評価などを総合的に評価する。							

教科番号	6547	授業科目名：教職実践演習（中・高）	担当教員名：教職担当教員：岩橋 法雄		
開講期間	後期	単位数：2単位	教科担当教員：中菌 政彦		
科目	教職に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	30 人				
【教員の連携・協力体制】 ・教職課程委員会を基軸に教職専任教員と教科担当教員が連携・協力して学生の指導にあたる。 ・授業計画の項目、第10回目から第13回目の講義では、教職専任教員・教科担当教員・実習協力校の教員がチームティーチングを編成し学生の指導にあたる。 ・「履修カルテ」を基に、学生個人の修学状況を把握し、さらには個性や動向についての知見を教職実践演習に携わる全教員が共有して学生の指導にあたる。					
【授業の到達目標及びテーマ】 変化の激しい時代の学校教育においては、生徒の興味関心等に基づき、生徒自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することが求められている。 このために、教職を目指す者に最新の教育に関する動向等を踏まえつつ、教職の意義や教員の役割を再確認させ、教員の具体的職務内容や学校現場の実態等について理解を深めさせ、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着を図るとともに、教員としての資質能力の向上を図る総合的な実践を行う。					
【授業の概要】 実践的な体験を重視する観点から本講座は、教職経験のある複数の教職専任及び教科専任の教員が担当し、授業内容をいかに実際の指導に活かすかという視点に立った、具体的な課題に沿って演習形式で進めていく。					
授業計画					
回数	授 業 内 容				予習、復習
1	イントロダクション（ガイダンス）、大学における本講座「教職実践演習」の位置づけを確認する。				60 分 60 分
2	教育実習での経験から得た教職の意義、教員の役割、職務内容等とは何かを視点（使命感・責任感・教育的愛情等）に沿ってグループ討論し、教師に求められる具体的資質能力について発表する。				90 分 60 分
3	学校の一員として、上司・同僚教師・職員との関係構築法についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、新任教師として対応の具体について疑似体験）				60 分 90 分
4	教員として、保護者や地域関係者との人間関係の構築法についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、学級 PTA の企画・運営やモンスターペアレント等への対応の具体について疑似体験）				90 分 60 分
5	生徒の集会や保護者会における教師のスピーチの在り方をロールプレイングしながら習得する。（特に、全校朝会や学級 PTA におけるスピーチをテーマにそって疑似体験）				60 分 90 分
6	教員として、生徒との人間関係の構築についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、反社会的行動の生徒や校則違反生徒等への対応の具体について疑似体験）				60 分 90 分
7	教員として、生徒との人間関係の構築についてロールプレイングをしながら習得する。（特に、不登校生徒への対応の具体について疑似体験）				90 分 60 分
8	学級経営の意義を理解し、実際に中学校・高等学校の学級経営案を作成し、グループ討論を行う。（鹿児島第一中学校・高等学校との連携）				60 分 90 分
9	現在の中学校・高等学校の様子を実際に見学し、学校現場の責任者より学校教育の課題等について講話を聞く。（鹿児島第一中学校・高等学校との連携）				60 分 90 分
10	中学校の「技術・家庭科」「数学」の学習指導の実際を自作指導案に基づき展開し、グループ討論を行う。				90 分 60 分
11	同上				90 分 60 分
12	高等学校の「数学」、「情報」、「工業」の学習指導の実際を自作指導案に基づき展開し、グループ討論を行う。				90 分 60 分
13	同上				90 分 60 分
14	教科の指導力とは何かをグループで討論し、今の自分に備わっている資質能力や不足している資質能力についてまとめる。				90 分 60 分
15	今求められている教師の資質能力とは何かを本講座の全体を振り返りながらまとめる。				90 分 60 分
【テキスト】：配布資料					
【参考書・参考資料等】：特になし					

【成績評価基準・方法】 : 授業への参加状況、学習状況（意欲、協調性）等から教員として必要な資質能力の修得を総合的に評価する。複数の教員により、学校現場の視点も加味して多面的な評価を行う。